

平成 30 年度 グローバルビジネス研修

オーストラリア派遣 研修報告書

訪問先：オーストラリア（シドニー）

期 間：平成 30 年 7 月 29 日（日）～8 月 5 日（日）



CA Global Business Study Tour
Sydney, Australia 2018

目 次

海外派遣生徒名簿	・・・	1
現地研修日程	・・・	1
インターンシップ		
①旅行会社でのインターンシップ	【名古屋商業】 辻 真子	・・・ 2
②海外でのインターンシップを経験して	【名古屋商業】 磯川 凜	・・・ 4
各種業務資料およびその他の写真	・・・	6
姉妹校体験入学		
①チェリーブルック工科高校への訪問	【名古屋商業】 辻 真子	・・・ 7
②チェリーブルック工科高校を訪ねてみて	【名古屋商業】 磯川 凜	・・・ 8
ホームステイ		
①ホームステイでの経験と発見	【名古屋商業】 辻 真子	・・・ 9
②初めてのホームステイで気付いたこと	【名古屋商業】 磯川 凜	・・・ 10
海外派遣に参加して		
①私の成長とこれからの課題	【名古屋商業】 辻 真子	・・・ 11
②海外派遣を通して成長したこと	【名古屋商業】 磯川 凜	・・・ 12
あとがき（総務・引率 松原 好秀）	・・・	13

海外派遣生徒名簿

学校名	氏名	学科等	Name	学年
名古屋商業高等学校	松原 好秀	教諭 総務	Matsubara Yoshihide	
名古屋商業高等学校	辻 真子	商業科	Tsuji Mako	3年
名古屋商業高等学校	磯川 凜	グローバルビジネス科	Isokawa Rin	2年

現地研修日程

日	月日	曜日	主な研修内容
1	7月29日	日	16:10 発 中部国際空港 CX539 便→香港(19:20 着)→CX161 便(21:35 発)
2	7月30日	月	8:45 着 シドニー到着 専用車にて終日市内視察 ボンダイビーチ・オペラハウス・ハーバーブリッジ・ロックス等
3	7月31日	火	インターンシップ(1日目) 株式会社日本旅行シドニー支店にて
4	8月1日	水	インターンシップ(2日目) 株式会社日本旅行シドニー支店にて
5	8月2日	木	姉妹校チェリーブルック工科高校訪問(体験入学1日目) ホームステイ
6	8月3日	金	姉妹校チェリーブルック工科高校訪問(体験入学2日目) ホームステイ
7	8月4日	土	市内視察 ホームステイ
8	8月5日	日	4:30 専用車にてシドニー空港へ移動 7:35 発 シドニー空港 CX110 便→香港(15:20 着)→CX532 便(16:15 発) 21:10 中部国際空港着

旅行会社でのインターンシップ

名古屋市立名古屋商業高等学校 3年5組 辻 真子

1. 体験先の概要

私は株式会社日本旅行シドニー支店で2日間インターンシップを行いました。シドニー支店では、現地から日本へ行く人々や、日本からシドニーに来る人々のサポートなどを主な業務としています。

2. 体験内容

1日目は、最初にオーストラリアやシドニーの歴史・文化と会社概要、最近の日本と海外の関係について、パワーポイントで説明を受けました。その後、名古屋出身で現在シドニーに滞在している3人の女性社員の方々から色々な話を聞かせていただきました。そして観光マップを作成する業務を行うために、Rocks という街へ行き、飲食店や免税店、レストランなどといった様々なお店の定員さんに、おすすめの商品や人気商品などについてインタビューしました。



2日目は、社員の方々に名古屋を紹介するプレゼンテーションを行う機会をいただきました。5分間のプレゼンテーションを準備し、名古屋名物や観光地について、社員の方々に英語で発表しました。その後、日本へ旅行する予定の現地のお客様が来店されたので、社員の方が英語で対応している様子を見学させていただきました。また、10月に日本からシドニーに来る予定の団体のお客様のため、数日間の食事内容について予算内でメニューを決定し、それぞれのレストランに英語でメール予約を行いました。

3. インターンシップで学んだこと

私が海外の旅行会社でインターンシップをしたことによって学んだことはたくさんあります。

まず、事前研修の中でオーストラリアの文化や歴史などを学んでいましたが、1日目のオリエンテーションでオーストラリアの説明を聞き、自分が知らないことがまだたくさんあるのだと思いました。例えば、オーストラリアは多文化・多国籍の国だということは学んでいましたが、だからこそ英語が共通語であるということ、また、様々な国の人々が話す訛りの強い英語も多いため、他国の人々に比べて英語を聞き取る能力に長けているということ、そしてオーストラリアやシドニーは、外国人の受け入れの割合が増加しており、そのために公共交通機関の発達が必要だということなどです。

また、外国で働きたいと思う日本人は年々減少していますが、海外志向のある人の多くは留学を経験した人たちです。留学をすることで英語に対する抵抗感が無くなり、そのことが外国で働くことへの障壁も低くなるからだという事を知りました。この話を聞き、海外で日本では出来ない経験をすることで自分の視野を広げることが出来るということを感じました。

名古屋出身の方々と話をした時、3人とも積極的に英語を話すこと、意識を持つこと、諦めないことが大切だという事をおっしゃっていました。その話を聞いて、私も英語をもっと上達させたいという意識をもって、勉強し続けることの大切さを改めて実感しました。

観光マップを作成するために様々なお店を訪問した際、どのお店の店員さんも出身国が違って見えました。インタビューという仕事を通して、オーストラリアが多民族国家であることを肌で感じました。また、日本食レストランの店員さんが日本人ではなく中国人だったお店もあり、国籍関係なく働く光景は新鮮でした。

2日目にお客様が来店された際には、担当の方が席を外すと、支店長が旅行の日程や訪れる場所などを質問することによって無言にならないようにしていました。ささいなことですが、このような気配りが人との距離感を縮め、よい人間関係を築いていくのだと思いました。

また、レストランへ予約した際に、似ている名前のメニューについては細かく入力することで分かりやすいようにしたり、社員の方ではなく、私たちがインターンシップでメールを送信したことが分かるようにメールを送信しているということに気が付き、日本人のおもてなしの精神や細かい配慮がされていることを感じる場面が多くありました。



4. 感想

私は現地でのインターンシップを通して、日本の会社と外国の会社の違いを感じました。まず、オーストラリアでは、社員の方とお客様との距離感が近いということです。日本では、レストランでも会社でも、基本的にはお客様のほうが立場が上だという感覚ですが、1日目にお客様が来店された際に、支店長が旅行のことについて話題にし、楽しく話しているのを見て、距離感が近いと感じました。

また、オーストラリアの会社は休憩時間が約2時間あり、夕方5時に会社は終わります。そして、家族と過ごす時間を大切にしています。日本では残業などがあつたりするので、そういった面でも違いを感じました。また、休憩時間を長く取ることでリフレッシュし、集中して業務を行うことが出来るのかなと思いました。こういった働きすぎないオーストラリアの働き方・暮らし方を知るために、視察に訪れる日本の企業も多いということがわかりました。

店員さんへのインタビューは、最初うまく質問できなかったのですが、次第に慣れてきて、色々な質問をすることができました。私たちが理解できなかったことは紙に書いて説明してくれることもあり、どの店員さんも親切でした。そして、英語を通してそれぞれのお店の人気商品やおススメの商品などを知っていくのはとても楽しかったです。自分達が得た情報は、観光マップになるということなの

で、それを見たお客様の役に立てたら嬉しいです。

プレゼンテーションでは、名古屋の事について紹介しましたが、パンフレットに記載されている内容以外の質問を受けた時、上手く答えることが出来なかったもので、自分が住んでいる名古屋についてもっと知ることが必要だと思いました。

現地のお客様が来店された際には、日本や名古屋の事を紹介できる機会でもありましたが何も話しかける事ができず、後悔してしまっただけでもありました。

このインターンシップで、自分が学校で学習していることが使われていると発見したこともありました。私たちがインタビューをしたRocks地区のマップや、普段のマップの作成の際にはイラストレーターが使われるという事を知りました。私は授業でイラストレーターを学んでいますが、将来イラストレーターを使うことは無いと思っていたので、それを知ったときは驚きました。そして、私が普段学校で学んでいることは色々な面で自分の将来に必ず役に立つことだと実感しました。

私は、このインターンシップを経験するまでは外国で働くということとはとても大変だというイメージがありましたが、インターンシップを通して英語は伝えようとする意識があれば伝わるということや、自分が思っていたよりも難しいものではないというように意識が変わりました。

そして、外国人の方と関わり、外国の会社でインターンシップをするという経験はこのグローバルビジネス研修だから出来たことだと思います。

この研修での貴重な経験を自分の進路に活かしていきたいです。



海外でのインターンシップを経験して

名古屋市立名古屋商業高等学校 2年3組 磯川 凜

1. 体験先の概要

私は株式会社日本旅行シドニー支店でインターンシップを行いました。主にインバウンド（日本からオーストラリアへ）とアウトバウンド（オーストラリアから日本へ）旅行する人のサポートを行っている会社です。

2. 体験内容とその感想

1日目の朝、企業の方と一緒に体験先へ向かいました。体験先へ行くまでの間にオーストラリアで有名な観光地やお勧めのお土産などを教えてもらいました。体験先に着くと、まず初めに会社の概要やオーストラリアについての説明を聞きました。私は旅行会社で働いてみたいと思ったことはありますが、具体的な業務内容についてはほとんど知りませんでした。旅行会社はインバウンド・アウトバウンドに加えてお客様の食事の予約や現地へ来た時のサポートなどをしていると聞き、自分が思っていたよりもたくさんの仕事をしていて驚きました。また、最近は海外で働きたいと思っている日本人が減っているということを教えていただきました。私の周りには海外で働きたいという人が多いので、このことを聞き驚きました。海外で働きたいと思っているほとんどの人が留学などの海外経験があり、英語があまり難しくないことに気が付いた人たちだそうです。反対に、今日英語が必須とされている社会で周りの人から英語のことばかり言われるために、一歩を踏み出すことができない人が多いということや、インターネットの普及によって海外のことを簡単に知ることができるので、海外に関する興味が薄れているということなどの理由から、海外で働きたくないと思ってしまうそうです。私も海外で働くことを想像すると、自分の英語が通じるのか、友達ができるのか、生活はしていけるのかなど心配事がたくさんあるので、海外で働くということに関して一歩を踏み出せないという気持ちはとても理解できました。英語は世界共通語なので、英語が話せない人にとって海外で働くことはとても難しいことだと思っていたのですが、出世した人の40%は母語が英語で

はないということを知りとても驚きました。

オリエンテーションの後、オーストラリアで働いている名古屋出身の方々と話し合いをしました。初めは緊張しましたが、企業の方がたくさん質問をしてくれたので、後半は自分たちからたくさん質問することができました。何故海外で働こうと思ったのかという質問では、「ワークキングホリデーや現地の友人に勧められて」と教えていただきました。どのように英語を勉強したのかという質問では「失敗を恐れずにどんどん外国の方と話すことが大切」と教えていただき、これからもたくさんの外国の方と話していきたいと思いました。私が名古屋出身の方々とお話しして印象に残っていることは、「自分がやろうと思えばできる」と言われたことです。私には海外へ行く機会はないと思っていましたが、この研修に応募したことで、派遣生徒として選拔され、実際にオーストラリアへ行くことができました。できるかできないかは本当に自分次第なのだと思います。



午後はロックス地区にあるナースウォークというエリアの観光マップを更新するために、実際に現地へ出向いてお店の人にお勧めの商品を聞いて回りました。お店の方は私たちの話す英語を一生懸命に聞いてくれて、また私たちの質問に対してはとても分かりやすく答えてくれました。聞いたことのない単語で理解できなかったときには、わかるように説明してくれたり、紙に書いてくれたりと、とても親切にいただきました。企業の方から「自分たちでどんどん質問していってすごい」と褒めていただけてとてもうれしく思いました。自分たちで考

えながら英語でコミュニケーションをとることはとても刺激的な経験となりました。

2日目は、企業の方々に名古屋のことを紹介するプレゼンテーションを行うために、英語でどのように名古屋を紹介するか先輩と相談しながら協力して英文を作成しました。そして昼休憩の前に時間を作っていただき、企業の方々に発表しました。練習する時間がなかったので、言葉が詰まってしまい流暢に話すことができませんでしたが、観光地や食文化など名古屋のことをしっかりと伝えることができました。発表中は企業の方々がうなずいてくれたり笑ってくれたので、あまり緊張せずに発表することができましたが、発表後の質疑応答では、英語で質問されてもすぐに答えることができず、改めて自分の英語力の低さを痛感しました。



そして午後には、シドニー旅行をされる団体のお客様の食事を手配する業務を行いました。はじめに、予算の範囲内でメニューを決めるのですが、メインの料理が連続しないようにするという意識を決めました。メニューを決定した後はメニューや人数・日付・時間などをパソコンに入力し、レストランへ予約のメールを送信しました。

また、この日は実際にお客様が来店されたので、対応している様子を見学させていただきました。現地のお客様なので英語での対応でしたが、普段私たちや先生方が話しているスピードよりも速く、また途切れることなく会話をしていました。そのような様子を見て、私ももっと英語力を高めてすらすらとコミュニケーションをとれるようになりたいと強く思いました。私にとって今後の新しい目標を見つけることができました。

他にも多くのことを学ぶことができました。それは働き方や時間の感覚といった面でも、日本と違

う部分があるということです。会社概要の説明の際、シドニーの勤務時間は9時から17時が多く、日本のように長時間残業することはほとんどありません。その理由は家族と過ごす時間を大切にするためだと知り、日本でもそのような考え方を持つてほしいと思いました。また、日本ではお客様が店員よりも立場が上のように感じますが、海外では店員がお客様と友達と会話をしているかのように話しているのを見て店員とお客様の立場が対等だという感じがしました。

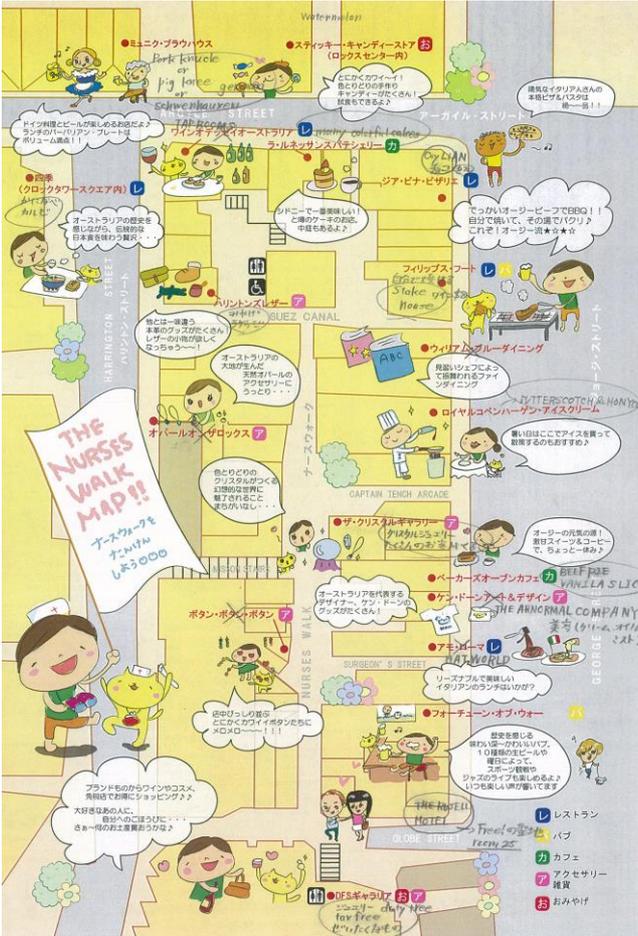
私はこのインターンシップを経験し、海外で働きたいという思いが強くなったので、少しでも海外に興味のある方には、調べたり現地を訪ねたりしてほしいと思いました。また、自分が何かやりたいと思ったら自分から行動することが大切だと学びました。

3. インターンシップを通しての感想

私は海外でのインターンシップを通して、海外に対しての考え方が変わりました。この研修に参加するまでは、海外で働くということはとても難しく自分にはできないことだと思っていました。しかし実際には、簡単な言葉でも自分の伝えたいことを伝えることができ、海外の方はとてもフレンドリーで優しく接してくれました。私も海外で外国の方と一緒に働きたいという新しい夢が見つかりました。これまで以上に英語を勉強し、自分の夢を実現するために今からしっかりと準備をしようと思いました。何かに挑戦するときには「自分がやろうと思えばできる」という言葉を思い出し、何事にも積極的に取り組んでいきたいです。インターンシップで得た経験を活かしグローバルな人材になれるよう自分の将来に役立てていきたいです。



<観光マップの更新業務>



<レストランへの予約業務>

Naoto Takeuchi

From: Naoto Takeuchi
Sent: 2018年6月1日 水曜日 16:12
To: 'Nick's Restaurants (nbound@nicksgroup.com.au)'
Subject: Supplier Request Booking - Our Reference: [REDACTED]

Nippon Travel Agency Australia Pty Ltd
 ABN: 91 003 145 355

Naoto Takeuchi, Inbound Business Division (Group Tours)

New Group Booking

To: Nick's Bar&Grill
Date: Wednesday 01 Aug 18

Please find below details of a new group booking. Please confirm this booking and provide written advice of confirmation by return.

Booking Name: [REDACTED]
Booking Reference Number: [REDACTED]
Passenger's Country of Origin: Japan

Service Required: DINNER
Number of People: 12 Adults, 1 Escort, 1 Guide
Location of Service: Sydney
Service Date: Tuesday 16 Oct 18
Service Time: 18:30
Menu: SET MENU 1-2 GREEK SALAD / GRILLED KANGAROO STEAK
Quantity Required: 1 per persons

PLEASE NOTE: NTA Australia Pty Ltd will accept liability at the contracted rates for the above service(s) only. Should there be a discrepancy between the above service(s) and the group voucher, please contact our office for clarification.

Please include the above Booking Reference Number on your invoice when forwarding for payment.

Kind Regards,

Mako and Rin for Naoto Takeuchi
 Assistant Manager
 Inbound Business Division (Group Tours)



Nippon Travel Agency Australia Pty Ltd
 Level 9, 22 Market Street, Sydney NSW 2000
 Australia

Phone: 02 9275 9625
 Fax: 02 9275 9618
 Email: ntakeuchi@ntaus.com
 Web: <https://www.ntaus.com>

<その他写真>



チェリーブルック工科高校への訪問

名古屋市立名古屋商業高等学校 3年5組 辻 真子

1. プレゼンテーション

チェリーブルック高校では、日本や名古屋・学校生活を紹介するプレゼンテーションを4回行いました。最初は緊張しましたが、クラスの皆がたくさん質問してくれたり、自分たちの発表を熱心に聞いてくれたので、段々と慣れていき、楽しみながら行うことができました。また、回数を重ねるうちに今まで数回行ったプレゼンテーションで学んだことなどを活かして、自然なプレゼンテーションができるようになっていきました。

質疑応答の時間では、日本の商業高校はなぜ男子生徒が少ないのかという質問がとても多かったです。また、日本のアニメが好きな生徒がとても多く、自分が知らないことまで知っていて驚きました。他には、日本食に関することや普段授業後にどのようなことをしているのかということについて興味を持っている生徒が多かったのですが、そういった質問に対して上手く答えることが出来ませんでした。日本や名古屋のことについて知らないことがまだまだたくさんあるということに気づき、日本人としてもっと知ることが必要だと感じました。



2. 授業参加

訪問した2日間は、バディの生徒と一緒に様々な授業に参加しました。

数学の授業では、方程式の問題でしたが、日本で学んだ解き方とは全然違ったことに驚きました。

体育では、皆と一緒に大縄飛びをしました。今まで話したことがなかった生徒とも仲良くなり、話したことのある生徒とはより仲が深まりました。スポーツを通してこのように交流を深めることはとても新鮮で楽しく、また嬉しかったです。

チェリーブルック高校の授業は日本の学校とは違い、それぞれの科目によって生徒のメンバーが変わるので多くの生徒と関わることができました。

木曜日の午後はスポーツデイといって、授業の代わりにスポーツをする日でした。バスケやバドミントン、ダンスなど様々なスポーツをしている生徒を見て、日本の学校では体育以外はあまり運動する時間がないので、そういう面でも文化の違いを学ぶことができました。

3. 感想

私が2日間の体験入学を通して1番感じたことは、生徒がとても多国籍・多文化だということです。それぞれ

のクラスには出身国が違う子ばかりで驚きました。また、ほとんどの生徒が何か国語も話すことができても多文化だということも感じました。

チェリーブルック高校では自分が学びたい言語を選択して学ぶことができるということを知り、オーストラリアは多国籍の国だから様々な国の人々の文化を知ったり、コミュニケーションを取れるようにするために英語以外の言語も学ぶのかなと思いました。そうすることで、様々な国の出身の人々が過ごしやすくなるのかなとも思いました。日本語クラスの生徒たちはとても日本語が上手で、日本の文化などにも興味を持ってくれて嬉しかったです。

その他に、日本の学校に比べて規則が厳しくなく自由だということも感じました。ランチタイムや休憩時間が多く、授業中にはパソコンでゲームをしている生徒がいたり、先生がご飯を食べ始めたりしているのを見て、日本では考えられないことに驚きました。授業中も自由に発言する生徒が多く、日本の授業との違いも感じました。

私が授業へ参加をして気付いたことは、授業中に寝ている生徒がいないということです。日本では、授業中に寝てしまう生徒がいるので、この違いには驚かされました。休憩時間やランチタイムを長く取り、しっかりとリフレッシュすることで、積極的な授業への取り組みにつながっていると感じました。生徒達は皆優しくフレンドリーで、自分が何か伝えようとすると、理解しようと一生懸命聞いてくれてとても嬉しかったです。



プレゼンテーションや会話を通して、日本や名古屋、学校のことや自分のことを伝えることができました。そして、オーストラリアと日本の学校の違いも感じることもできました。この2日間はとてもあっという間に過ぎてしまってもっと皆と話したかったし、一緒にいたかったので寂しかったです。

この体験入学での経験や感じたこと、学んだこと、日本の学校との違いなどを友達などに伝えていきたいと思っています。そして、他国の文化に目を向けるだけでなく、日本についての知識をさらに深めていきたいと思いません。また、グループワークでは発言する回数を増やすなどして、チェリーブルック高校の生徒たちのように積極的に授業に参加していきたいです。

チェリーブルック工科高校を訪ねてみて

名古屋市立名古屋商業高等学校 2年3組 磯川 凜

1. 学校の雰囲気

初めて登校した際、私は生徒の人数が多いと感じました。何人ぐらいいるのか尋ねてみると、生徒は2千人、先生は100人以上いるということが分かり驚きました。

日本と同じように、休み時間になると生徒たちはボール遊びをしたり走り回ったり、友達と話したりしていましたが、生徒の人数が多いのでとても賑やかに感じました。

私はバディの生徒と一緒に授業に参加しました。授業の雰囲気は全く日本とは違いました。授業中、多くの生徒が積極的に手をあげ、自信をもって自分の意見を述べていました。私も自信をもって自分の意見を言えるようになりたいと思いました。

訪問初日の午後は Sport Day という体育行事があり、私はバレーボールに参加しました。試合には出場しませんが、数人で練習をしていると徐々に人が集まってきた最後には大人数で練習をしました。とても楽しかったです。試合中は仲間を褒める言葉しか聞こえず、とても良いチームだと思いました。試合に勝ったときには抱き合って喜んでおり、その中に自分も入れてくれてとてもうれしかったです。オーストラリアの学校生活は、日本とは違い、校内で友達と過ごす時間も楽しんでいるように感じました。



2. プレゼンテーション

日本や名古屋、学校生活を紹介するプレゼンテーションを行う機会が何度かありました。発表する前はとても緊張していましたが、生徒の皆さんは私たちの発表を真剣に聞き、質問には皆答えてくれたり笑ってくれたりしていたのでとてもうれしかったです。発表が終わった後に「CAには男子が2.6%しかいない」という話を友達同士で話しているのを見て、相手の印象に残る発表ができてよかったと思いました。また、日本や名古屋・学校のことだけでなく、私自身に対しての質問も多く、日本という国や日本人の考えに対して非常に興味を持っているということがわかりました。

3. 感想

チェリーブルック工科高校では自分の勉強したい科目を選択するようで、英語や数学などの普通教科に加えて、日本語・フランス語・土木・デザイン・ドラッグ・アプリケーションなど、たくさんのことが学べると知り驚きました。

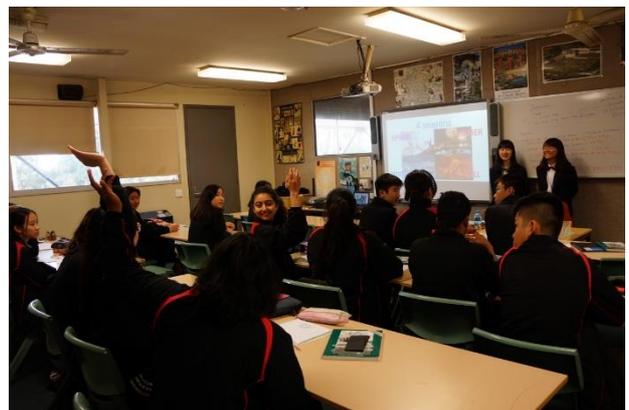
オーストラリアは移民の国なので、学校内でも生徒の出身国は様々でした。ですが差別などすることは全くなく、互いに国籍関係なく友達として接していました。国籍が違う者同士で考え方や感じ方が違うと思いますが、互いに理解し合って、相手のことを尊重していました。チェリーブルック高校でさまざまな国の人と話すことができ、異文化理解を深めることができました。自分もそのような環境で過ごすことができたらいいなと思いました。

そして、授業中に多くの生徒が積極的に自分の意見を発表しているのを見て、自分ももっと積極的に自分の意見を発表していきたいと思いました。

Year8 (中学生に相当) のクラスで、日本や名古屋の紹介をした時には、考えていた自己紹介をとばしてしまい悔しい思いをしました。ですが、質疑応答の時間でのやり取りの中で、自分のことを伝えることができました。英語での質問に対して、自分で考えて答えることができ、臨機応変に対応できたことは、私の中での成長できた点だと思います。日本語での質疑応答もあり、大変盛り上がりました。とても楽しい時間を過ごすことができました。

教室移動の際、バディの友達ともたくさん会話しました。そのときに「Welcome to Australia」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。生徒たちはみんなフレンドリーで優しく、歩いているとたくさん話しかけてくれました。

チェリーブルック高校で過ごした日々は、忘れることのできないとても良い思い出になりました。



ホームステイでの経験と発見

名古屋市立名古屋商業高等学校 3年5組 辻 真子

1. ホストファミリーと行った場所

1日目の授業後にはホストの子とその友達と Chatswood という所へショッピングに行きました。そこで、2人ともたこ焼きを食べたことがないと言うので3人で一緒に食べました。2人ともすごく美味しいと言って嬉しかったです。

2日目の授業後にはコアラパークという所に行きました。そこには、コアラやカンガルーの他にも見たことのない動物をたくさん見ることができました。カンガルーは檻の中などに入れられておらず、エサをあげたり触ったり、一緒に歩いたりすることができました。また、コアラを触ることができました。想像していたよりも大きくて驚きましたが、とても可愛かったです。カンガルーやコアラと触れ合うという、日本ではなかなかできない貴重な体験となりました。

3日目は、ホストファミリーと一緒に世界自然遺産の Blue Mountains に行きました。そこにはスリーシスターズという大きな岩があり、とても迫力があり圧倒されました。

2. 新たな発見

私がホームステイを通して驚いたことや発見したことはたくさんあります。

まず、ホストファザーが料理などの家事をしていることに驚きました。日本では、お父さんは仕事をする人がほとんどだと思っていたのでそういうところで文化の違いを感じました。

次に、家族で過ごす時間を大切にすけど1人1人の時間も大切にすということを知りました。家族は食事の時間以外はそれぞれの部屋で過ごしていることが多かったのです。

ホストの子に日本語の分からないところを教えた時、「らしい・みたいだ・だろう」などの違いが分からないと言っていたのですが、考えたこともなかったので、説明するのがとても大変でした。普段意識せずに使っている日本語を教えるということはとても難しいことだと感じました。

3. 食事について

1日目の夕食には味噌汁が出て、オーストラリアの家庭でも食べるということに驚きました。

他に、ベジマイトやフィッシュアンドチップスといったオーストラリアの有名なものを食べることができました。ベジマイトはパンに塗って食べるオーストラリアの国民食とも言えるものです。匂いや味が強いと想像していましたが、思っていたよりマイルドで美味しかったの

が印象的です。

食事の時間を通して、私のホストファミリーは夕食は家族揃って食べるということを大切にしているのだと感じました。そして、食事中は会話が途絶えることはありませんでした。その日の学校での出来事や、名古屋のこと、家族のこと、オーストラリアのことなど多くのことを話し、とても楽しい時間でした。

また、ホストファミリーは韓国人だったので韓国料理が多く、オーストラリアに住んでいても自分の国の料理を食べるということも知りました。



4. 感想

私のホストシスターは、4歳の時に両親のビザでオーストラリアに来たと言っていました。それを聞き、それからずっとオーストラリアに住み続けているのは多国籍・多文化で住みやすい国だからなのかなと思いました。

ホストファミリーと過ごすうちに、緊張感が徐々に和らいでいき、しっかりとコミュニケーションを取ることができるようになっていきました。その中で、自分が知らなかったオーストラリアの事を知ったり、逆に、オーストラリアの人々は、日本のマナーの厳しさなどについて不思議に思っているということなど、多くの事を知ることができました。

ホストファミリーは、親の仕事や兄弟の事など、私の家族の事について聞いてくれることが多く、事前に家族の事について紹介する文章を考えておいたのが役立ち、良かったなと思いました。

そして、私の家族はお父さんが仕事で食事中いないことが多いので、家族皆で食べ、色々な話をする事でコミュニケーションを取ることの良さや大切さを感じました。ホストファミリーと過ごした3日間はとてもあっという間に過ぎてしまいましたが、この3日間で異文化理解を深めることができたと思います。

ホームステイで感じたことなどを自分の周りの人々に伝えていけたらと思います。

初めてのホームステイで気付いたこと

名古屋市長名古屋商業高等学校 2年3組 磯川 凜

1. 初めてのホームステイ

私にとっては、初めてのホームステイでした。実際に顔を合わせるまでは、「自分の英語が理解されるだろうか」「自分のことを受け入れてくれるだろうか」などと考えていました。しかしそんな不安はすぐにどこかへ飛んでいきました。ホストファミリーは私の話す英語を粘り強く理解しようとしてくれるだけでなく、わかりやすい英語で話してくれました。そして、初めて会った瞬間から受け入れてくれていると強く感じ、安心感を覚えました。家では、日本のことや私自身のことについて質問してくれて、たくさん会話することができました。また、「これは日本にはあるの?」「この英語は日本語で何て言うの?」などと日本の文化や日本語に興味を持ってくれていて嬉しく思いました。

今回のホームステイでたくさんの場所へ行き様々な経験をすることができました。ショッピングへ行った際には、オーストラリアで有名な自分でカスタマイズするドリンクを購入しました。抹茶・小豆・ライチがブランドされていて、味はとても独特でしたが美味しかったです。それを飲みながらショッピングをしました。日本では何かを飲みながら買い物することはあまり良く思われませんが、こちらではそれが普通というところが自由で良いと思いました。アクセサリーショップでは、ホストシスターとお揃いの物を買おうという話になり、ホストファザーがお揃いのネックレスを買ってくれました。一生大切にしていきたいと思いました。

ホストファミリーがとても親切にしてくれたおかげで、とても楽しい時間を過ごすことができました。初めてのホームステイがこの家族でとてもよかったと思いました。

家の周りを散歩している時、近所の人と頬と頬を合わせる挨拶をしました。このような挨拶は日本でしたことがなく、初めての経験でした。相手との距離感がとても近いので、心の距離も近づくような感覚があり、とても新鮮でした。

2. 日本との違い

ホームステイを通して、日本と違うと感じたのは家についてです。私が過ごした家はとても大きく、プールやハンモックなどがあり驚きました。海外では、家の中は靴で過ごすと思っていましたがほとんど靴で過ごすことはありませんでした。

食事も日本とは違い学校から帰ったときにも軽めの食事がありました。日本では母親が料理をすることが多いように感じますが、こちらでは料理はすべて父親がしていました。ホストファザーの作った料理がオーストラリアで食べた料理の中で一番美味しかったです。

お店の人の対応も日本と違うと思いました。日本では

「お客様のほうが偉い」というような対応ですが、海外では「お客様と店員は対等」といった対応でした。

オーストラリアで生活する中で、日本とオーストラリアの良い部分をたくさん発見することができました。文化の違いがとても面白いと思いました。

3. ホストファミリーと過ごす休日

ホームステイの最終日は休日だったので、家族みんなで Featherdale Wildlife Park という動物園へ行きました。そこでワラビーやカンガルーにエサやりなどをしました。カンガルーを撫でたり、コアラに触ったりして、一緒に写真を撮ることもできました。撮った写真をホストファミリーがプレゼントしてくれました。

次に The Entrance というペリカンが集まることで有名な場所へ行きました。ペリカンが当たり前のように道を歩いていて驚きました。ビーチへ行くと、水が透き通っていて濃い青色や薄い青色などの色のコントラストがはっきりしていてとてもきれいでした。昼食にフィッシュアンドチップスを食べました。昼食の後にバブルガム味のとても濃い青色のアイスクリームを食べました。今まで食べたアイスクリームのなかで1番美味しかったです。夕食後、ホストファミリーへ手紙を読みました。精一杯の英語で感謝を伝えました。皆喜んでくれて「またいつでもオーストラリアに来てね」と言ってくれました。ホストファミリーとの再会を誓い合って、私の初めてのホームステイが終わりました。

4. 感想

ホストファミリーに初めて会ったときは少し緊張しましたが優しく受け入れてくれました。

食事をしたときや何かをプレゼントしてもらったときに「ありがとう」だけでなく、自分の気持ちをもっと伝えておけばよかったと思いました。

ホストファミリーにはたくさんのところへ連れて行ってもらい、いろんな経験をさせてもらいました。自分は本当にホストファミリーに恵まれていると思いました。今度は自分がホストファミリーにしてもらったように名古屋や日本を案内したいと思いました。



私の成長とこれからの課題

名古屋市立名古屋商業高等学校 3年5組 辻 真子

1. 私の研修の目標

私は将来英語を活かせる職業に就きたいと思っているので、海外でのインターンシップや体験入学、ホームステイなどの経験を役立てたいと思い研修に参加しました。また、現地の人々に日本や名古屋、学校生活について知ってもらい、私自身も異文化理解を深めることを目標としました。

2. 事前の準備

事前の準備では、主に外国人講師との英会話レッスンや、チェリーブルック高校でのプレゼンテーションの準備を行いました。

英会話レッスンでは、自己紹介や日本の紹介、ビジネス英会話など幅広い内容でレッスンを受けました。最初は積極的に話せなかったり、言いたいことがすぐに英語で言えなかったりしましたが、徐々に話すことができるようになりました。講師に日本の事について何か教えると「知ることができて良かった」と言ってくれることもあり、とても嬉しかったです。このような実践的な英会話レッスンのおかげで、現地でもしっかりとコミュニケーションをとることができました。

プレゼンテーションは日本の四季や行事、観光地を紹介するものと、私たちの学校を紹介するものを作成しました。準備を進めていく中で自分が知らなかった日本の文化や歴史なども知ることができました。リハーサル練習では棒読み感が強いことや、暗いと言われることが多く、英会話とは違った難しさを感じました。

3. オーストラリアでの体験

市内視察では、シドニーの観光地を訪れながらオーストラリアの歴史や文化を学びました。事前研修で学習した事以外にも知らなかったことがたくさんあり、さらに見聞を広めることができました。

インターンシップでは、お店の方へのインタビューやレストランへの予約業務などを担当させていただきました。その中で、外国で働く上で大切なことは、英語を通して様々な国籍の方々と関わり、文化などを知っていくことに加えて、日本人が大切にしている相手へのおもてなしの心や配慮などだと感じました。

体験入学では、プレゼンテーションや普段の会話を通して日本や名古屋、学校のことなど皆に伝えることができました。また、オーストラリアのことや、日本の学校との違いを知ることができました。生徒が多国籍だということや、何か国語も話せる子がほとんどだということに驚きました。

ホームステイでは、ホストファミリーと過ごすことで日本の家庭や自分の家族との違いなどを感じることができました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

この研修で、私が一番感じたことはオーストラリアという国は自分が想像していたよりもずっと多国籍・多文化だということです。街を歩いているだけでも、学校にも、様々な国籍の人ばかりで驚きました。そして、多文化・多国籍の国だから学校で様々な言語を勉強したりしているのだと思いました。

街の建物などにはイギリスの植民地だったということを感じるようなものが多くあったり、先住民のアボジニの言葉が使われているものがあつたりして、オーストラリアは文化・歴史を今でも大切にしている国だということも感じました。

この研修を通して、現地の人々に日本のことなどをしっかりと伝えることができました。また、私自身の変化としては、多くの事を経験し学んだことで、英語を使う仕事に就きたいと、さらに思うようになりました。

また、日本の学校の規則がなぜ厳しいのかなど、自分が当たり前だと思っていたことに対して質問された時、文化の違いを感じ、異文化理解の大切さを学びました。これから先、外国の方ともっと関わって、日本や名古屋のことを知ってもらい、私自身も異文化理解を深めていきたいと思いました。

<課題>

この研修で私が感じた課題は、私たちが暮らしている日本や名古屋のことをもっと知ることです。質問された時に上手く答えることができなかつたりした時、もっと知っていればと思うことが何度かありました。そのために、普段からニュースなどを見て日本のことについてきちんと知っておくことが大切だと思いました。

2つ目は積極性です。インターンシップで来店されたお客様に話しかけられなかったのも積極性が足りなかったからだと思います。なので、これからは授業なども含めた普段の生活で積極的に人と話したりすることを心がけていきたいと思います。

また、ホストファミリーとの会話の中でも自分の知らない単語などがあつたり、言いたいことがすぐに英語で出てこなかつたりすることがあつたりした時、自分の英語力不足を感じたので、英語をもっと勉強することが必要だと思いました。

これらの課題を克服しながら、この研修で学んだことや経験したことを自分の将来に活かせるよう、これからも頑張っていきたいです。



海外派遣を通して成長したこと

名古屋市立名古屋商業高等学校 2年3組 磯川 凜

1. 私の研修目標

海外の方とたくさん話したいということと、研修先が移民の国と言われているオーストラリアであることから、「①英語力の向上」、「②英語でコミュニケーションを積極的にとる」、「③多文化を理解する」ということを目標にこの研修に取り組みました。

2. 事前の準備

事前研修では、英会話レッスンや、日本や学校生活について紹介するプレゼンテーションの準備を行いました。

英会話レッスンでは講師の方とマンツーマンでレッスンを受けるので会話に集中することができ、自分の質問したいこともたくさん質問することができました。講師の方から「これからも英語の勉強を続けること」「海外の映画を英語で見ること」「英語の本を読むこと」「英語の歌を聞くこと」「友達と英語で会話をする」というアドバイスをもらいました。私はこれらのアドバイスに従って今後も英語の勉強をしていきたいと思います。

プレゼンテーションの準備では、作ってはリハーサルをし、先生方からアドバイスをいただき修正を重ねながら完成させました。

3. オーストラリアでの体験

インターンシップではお店の人にインタビューをするという仕事をしているとき、日本と違いオーストラリアではお客様と店員は対等の立場にあるように感じました。また、インタビューを通し海外の方とたくさん話すことができました。



私はオーストラリアでの体験の中で特に学校体験入学が印象に残っています。学校では様々な国籍の人と会話をする機会が多く、たくさんのことを学ぶことができました。趣味や日本とオーストラリアの違い、友達のことなどについて話しました。2日間という短い期間でしたが、その2日間とてもたくさんの友達ができま

した。私にとって海外の友達は初めてでとてもうれしく思いました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

私はこの研修を通して海外に対しての考え方が変わりました。特に海外で働くということについてこの研修を行う前は、自分にはすごく難しいことだと考えており、海外で働こうという考えは持っていませんでしたがインターンシップを通して、思っていたより英語でコミュニケーションをとることは難しいものではなく、海外の方はみんなフレンドリーでとても優しく私も海外で外国の方と一緒に働いてみたいと思うようになりました。

研修の目標としていた「英語力の向上」「英語でコミュニケーションを積極的にとる」ということに関しては、プレゼンテーションや友達との会話を通し相手の伝えたいことが理解できるようになったことや自分の伝えたいことを自分の英語で伝えることができるようになった点がこの研修で得た成果だと感じています。

「多文化を理解する」という目標に関しては学校体験入学を通し「異文化を受け入れ理解し合うということができて当たり前」だと気付くことができ、自分も以前よりも多文化を受け入れ、理解することができるようになったと思いました。

<課題>

実際に海外へ行き、自分の英語力の低さを改めて感じました。英語力を向上させるために、英会話レッスンのときにいただいたアドバイスを大切に、英語を勉強し続けたいと思いました。

また、現地では同じような英語を使って話していたので、豊かな表現力を身につけ、自分の思っていることを正確に伝えられるようになりたいと思いました。

そして、私が考える一番の課題は「この研修で得た経験を将来に役立てる」ということです。今後、自分の進路を決めるときなど様々な場面で生かしていきたいです。

私は、グローバル人材として大切なのは、異文化理解を深め、国や国籍で人のことを決めつけるのではなく、一人の人として接していくことだと学んだので、この意識を忘れずに日頃の生活でも異文化理解を深めるために努力していきたいと思いました。また、チェリーブルック高校の生徒のように、自分の意見・考えに自信を持ち、積極的に伝えることを意識しようと思います。

本校では本年度より、「人と企業がボーダレスに行き来するグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力とビジネススキルを身に付けた人材の育成」をねらいとして、国際経済科からグローバルビジネス科へ学科改編されました。これに合わせて、オーストラリアのシドニーにおいて海外研修を行うこととなり、本校の生徒海外派遣事業は新たなスタートを切りました。これもひとえに名古屋市教育委員会、関係機関の皆様を始めとする多くの方々のご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本オーストラリア派遣は、グローバルビジネス研修と題し、現地でグローバルビジネスに関する調査および実習として、名古屋市立高等学校として初めての取り組みとなる「海外でのインターンシップ」が大きな特徴です。また、研修の後半は、本校の姉妹校であるチェリーブルック工科高校への体験入学やホームステイなどを行いました。10年以上にわたり交流を続けている学校ですが、本校生徒の訪問は今回が初めてとなります。学校では、名古屋のことや高校生活について紹介するプレゼンテーションを行ったり、バディの生徒と一緒に授業に参加したりしました。派遣生徒一人ひとりが積極的に研修に取り組み、海外でのインターンシップや姉妹校交流、ホームステイなどを通して異文化理解を深め、日本との文化の違いなど多くのことを学ぶことができました。本報告書には、2名の派遣生徒の体験や現地研修で感じ取ったこと、学んだことが率直に述べられております。この研修を成し遂げた生徒たちの想いや成果を読み取っていただければ幸いです。

オーストラリアは全住民の約4分の1が海外生まれという多民族国家であり、多文化共生の意識が浸透している国です。これまでも数多くの移民を受け入れてきたオーストラリアでは、多様な文化的・言語的背景をもつ人々がともに暮らす社会が形成されています。そのような国で実施する研修をより有意義なものにするため、私たち派遣団は12回にわたる事前研修を実施しました。オーストラリアの歴史、宗教、産業、生活習慣について調査研究を行い、お互いに意見を出し合うことによって、知識を共有し理解を深めました。語学研修では、オンライン英会話レッスンを活用し、外国人講師による日常英会話やビジネス英会話をマンツーマンで指導していただきました。

現地研修では、株式会社日本旅行シドニー支店にてインターンシップを行いました。旅行会社の業務内容や、海外で働くことの楽しさや難しさなどを教えていただきました。シドニーの観光マップの更新業務を任された際には、実際にエリア内のお店に足を運び、人気商品やおすすめ商品についてお店のスタッフにインタビューをしたり、日本からオーストラリアへ来る団体旅行者の食事の手配をするために、レストランへ予約のメールを送ったりするなど、積極的に業務をこなしていきました。これらはすべて英語で行われるわけですが、初めのうちは緊張した様子で会話も少なかったものの、しばらくすると驚くほど積極的にコミュニケーションをとれるようになっていきました。「間違いを恐れずに思い切って英語を使ってみて」と支店長の安達様からいただいたアドバイスを実践できたようです。

そして、チェリーブルック工科高校では、名古屋や学校生活について英語でプレゼンテーションを行いました。2日間通う中で、何回か発表の機会をいただきました。インターンシップの際と同様に、初めのうちは緊張で上手に発表できずもどかしい思いをしていましたが、回数を重ねるうちに、自分の言葉で自然と英語を話していたのが印象的でした。発表後には多くの質問が出され、日本の四季や名古屋の食文化について答えるなど、しっかりと伝えることができました。授業では、生徒たちの発言が多く、皆でコミュニケーションをとりながら授業が進められており、派遣生徒たちは日本の授業スタイルとは大きく違うことに驚いていました。生活を共にすることで、オーストラリアの高校生活を肌で感じることもできたのではないのでしょうか。

今回の海外研修を通して、生徒たちは、多民族・多文化国家であるオーストラリアの産業、文化や歴史を学ぶだけでなく、グローバル社会に生きる国際人としての意識を持ち、視野を広げることができたと確信しています。この経験を活かして、新たなスタートに向けた第一歩を踏み出すことを期待しています。そして、新たに実施されたこの海外派遣が、今後も継続されいっそう発展するとともに、先進的な名古屋市の商業教育の発展向上に貢献できることを切に願っております。

最後に、講師の先生、保護者の皆様、旅行会社様、名古屋市教育委員会、学校関係の皆様にご多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

CA Global Business Study Tour
Sydney, Australia 2018

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。